

日韓交流・研修ツアー参加報告

～韓日共同認知症学術大会 2018～

報告者：高齢協連合会
会長理事 高見 優

日時： 2018年10月4日（木）～6日（土） 2泊3日
場所： 韓国・ソウル市内 全経連会館3階ダイヤモンドホールほか
参加者： （日本側）認知症の人と家族の会（AAJ）約40名、
ほかに高齢協連合会など4名。
主催： 公益社団法人「認知症の人と家族の会」（AAJ）
～鈴木森夫代表理事、本部：京都市
社団法人「韓国痴呆協会」（KAD）
～ウ・ジョイイン会長（医師）、ソン・チグン事務総長

文責：専務理事
稲月秀雄

高齢協連合会ニュース「No. 242」

2018年
10月26日(金)

開催趣旨：

認知症の問題は、国や地域を超えた世界の課題である。「家族の会AAJ」は国際的な取り組みを進めるため、国際アルツハイマー病協会（ADI、本部：英国）に1992年に加盟し、2004年と2017年に京都でADIと国際会議を共催し、国内外にこの問題の発信と情報交流を行ってきた。また、1993年に世界アルツハイマーデーが世界的な取り組みとして始まり、AAJも毎年、啓発活動を実施している。2018年は第25回を迎える。

これらを記念するとともに、今後高齢化が急激に進むアジア地域において、重要な2カ国である日本と韓国の関係をより一層深めるため、AAJは韓国痴呆協会KAD（2018年ADI加盟）と今回の事業を共催した。

KADは、日本高齢協連合会の事業・運動組織に注目しており、今回のシンポジウムに招待し報告を求められたため、高見会長理事と稲月専務理事が参加した。

内容：

学術大会シンポジウム、ウォーキングイベント（相合い傘歩きゴッキ※）、韓国の介護家族・専門職との交流・懇親会。

※ 相合い傘歩きゴッキ：認知症の啓発・予防を目的にソウル昌徳宮（チャンドクン、世界遺産）を歩くイベント。台風による悪天候下、日韓の認知症当事者・家族・支援者らが参加。整備された散歩道を自由に散策した。相合い傘は「友好」を象徴、シンボルデザインがつけられた。ゴッキ（걷기）は「歩く」の意味。女優のパク・インヨンKAD広報大使も参加。

協力団体：

この事業は、公益財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団の「会議会合・国際交流費等助成」（寄付金）と、エーザイ株式会社、認知症フォーラムドットコムほかと、個人の寄付金による。

関連企業から資材提供、日本高齢者生活協同組合連合会から講師派遣、同志社女子大学現代社会学部（ワンダフル・エイジング・プロジェクト）など多くの方々協力した。

<高見コメント>

私は AAJ の会員（認知症の母の家族）でもありますが、今回、高齢協連合会として講師派遣を要請されて参加し、稲月専務理事ともども報告しました。（後記）

AAJ は、当初「呆け老人をかかえる家族の会」という名称で、京都に本部があり（現在も）、代表理事は高見国生さんでした（同じ京都人で高校の先輩ですが、姻戚関係はありません）。高見さんは昨代表を降りられ、現在の代表理事の鈴木森夫さんが参加されました。

これまでは高齢協組織内にも、個人的に会員になって AAJ とその支部活動に参加していた人がかなりいたと思いますが、今回の訪韓中に、高齢協連合会の組合員や理事が何人も参加していることがわかり驚きました（宮城・三重など）。私は鈴木代表理事と話し合いをし、今後はより積極的に組織的にも連携を深め、協力し合ひましようかと約束しました。AAJ 本部事務局（京都）の担当者（鷲巣典代さん）は、さっそく京都高齢協に加入したいと仰っています（福岡高齢協に事前視察に来られた方です）。

そして AAJ の幹部は、韓国 KAD が高齢者運動に関心を持っていることを知り、AAJ としても会費・寄付金による組織運営だけでなく、独自の事業を展開することの必要性を漏らしていません。この点からも、仕事おこしを掲げる高齢協は、連合会のみならず各地の会員（単協）として、また組合員・役職員も AAJ の組織・会員と積極的に交流されるよう希望します。

◎学術大会について（概要）

●セッション1：「若年性認知症」～韓国の専門家 2 人が病理・疫学の観点から、川井元晴医師（山口大・神経内科、家族の会理事）は、日本の若年性は平均 51（前後 10）歳で偏見や就労問題があり、受け入れ施設や情報が少ないが、高齢者同様本人がやれることが続けられるようにケアすべき、と述べた。

●パネルディスカッション：「若年性認知症と共に生きる」

日本から、

①成本迅医師（京都府立医大・精神機能病態）が本人・家族・支援者の関わりについて「京都市オレンジプラン（新）」による実践を報告。本人に合わせた取り組み、就労の柔軟な活動、社会参加の実例紹介。「認知症になることは不便ではあるが、不幸ではない」

②竹本恵美子さん（本人）・康成夫妻と安藤光徳世話人の鼎談～「出来ないことを少し手伝い、出来ることを大切にする」、「妻がいるだけでいい。出来なくなっても、妻であり、子どもたちの母であり、今までバリバリ働いてきた一人の女性である」（恵美子さんは元中学校校長で、教員一筋の真面目な性格）。「認知症/つながる/心が/笑顔呼ぶ、悔いのない人生を妻と一緒に」。（終了後、私から岡山高齢協のことを紹介しておきました。）

③丹野智文さん（仙台市）～今やマスコミなどに登場する著名な当事者の一人、相談窓口「おれんじドア」開設。優秀な自動車販売営業マンが 38 歳で発病。会社の理解があって事務職で勤務継続。「認知症と共に生きる」「自分は悪くない。しかし偏見は自身や家族の心の中にもある」「薬より環境」「出会った人すべてがパートナー」「時間はかかるが出来ることを奪わないで。信じてあげて」「本人・家族は不安で一杯」「認知症は恥ずかしい病気ではない。誰でもなりえる、ただの病気です。だから他人事ではなく自分事として受けとめてほしい」

④岩佐まりさん（1983年生まれ、フリーアナ。70歳の母を15年間、一人で在宅介護中。ブログ「若年性アルツハイマーの母と生きる」は月間300万アクセス）～韓国大好き9回目。朝9時から18時までデイサービス利用し仕事に出かける2人暮らしで、忙しいけれど「今が一番幸せ」です。思い出づくりに今回思い切って参加した。周囲の人に助けられ、人の温かさを知りました。

⑤韓国のパク・イルグンさん～妻が55歳で発病（前頭側頭型）。病名がわかるまで転々とし、それまでは、車を運転し事故起こしたり大金を誤って振り込んだりドラマのような日々。夫を殴るのは愛情表現だと理解するまで6年。専門施設がない、利用できるサービスが不足、何とかしてほしい。

●ランチョンセミナー「日本映画にみる Active Aging」：パク・ヘビンさん（同志社大学留学中）

●展示：韓国および日本の認知症ケアロボット～同志社女子大学ワンダフルエイジングプロジェクトの参加もありました。

⑥高見（高齢協連合会）。時間が残り少ないため、レジュメのうち高齢協の歴史を簡単に説明し、とにかく日韓の連携で高齢協・協同組合組織を通じて社会的事業と運動を拡大・深化することで、地域社会づくりを進めていくことを、自信と確信をもってやっとう。ユネスコにより協同組合の理念と実践が無形文化遺産として登録されたように、私たちの協同組合は今こそ社会・時代から必要とされていることを確認したい、今後ともお互いに必要な情報の共有、経験交流をより発展させていこうと呼びかけて、高齢協の具体的な活動については、稲月専務理事の報告時間を残し、私の報告を終えた。



⑦稲月専務理事。「福祉・生きがい・仕事」についてスライドで高齢協連合会会員の活動風景を示し、日本の社会保障の推移を漫画で説明した。そして、高齢協の組織に加わる意義について、実利的なメリットを求めるのではなく、高齢協に加わることにより、「生きがい」なら仲間とつながりをつくることことができる、それを欲する人が自らつくること、「福祉」なら自らケアのパートナーをつくれる、「仕事」なら社会に必要とするものが作れる。このように協同組合は、自ら主体的に参加することによって、やりたいことができ、つくりたいものが作れる。協同組合とは、希望することやニーズを形にし、一緒につくっていく組織であると述べた。



座長がまとめて、「協同組合とは、まさに稲月さんが報告されたように、地域で自らが主体的に参加していく『イニシアティブ組織』である」と強調されましたが、高齢協の英訳として「Senior Initiative hand in hand」と大会レジュメに書かれていました。

●最後に、ソン・チグン KAD 事務総長と鈴木森夫 AAJ 代表理事が、韓日共同ステートメント（声明）をそれぞれハングルと日本語で読み上げ、満場の拍手で確認されました。

<まとめ>

歴史的な「韓日共同認知症学術大会 2018」の長い一日が無事終了し、認知症をめぐる両国の研究成果と社会全体の認識を共有し、本人と家族の生活を向上させる可能性を確認し、高齢者自身による協同組合運動の理念と実践を共有し、今回のように交流を深めることが両国だけでなく、国際アルツハイマー病協会 ADI 加盟 96 か国、中でもアジア太平洋地域の活動の発展に繋がり、高齢者を敬う伝統文化を持つ韓日両国が認知症の人と高齢者がいきいきと生活できる社会の実現に向かって、手を取り合って活動を進めていくことを確認し、私たち自身が主体となって新しいパラダイムを実践する日がくることを参加者全員で力強く確認し合いました。



日韓認知症学術大会 2018 in ソウル
全経連会館・ダイヤモンドホール



親善交流・夕食会

三清閣・一和堂～サムチョンガク・イルファダン
(前列左から) ウ・ジョイイン会長／鈴木森夫代表
(後列左から 2 番目) ソン・チグン事務総長



日本側参加者全員でアリラン
(伴奏は稲月専務理事)